

素 顔 拝 見



小児歯科学分野・准教授

齊 藤 一 誠

平成24年4月より准教授として小児歯科学分野にお世話になっております齊藤一誠（さいとう いっせい）と申します。皆さまとお話する機会もなかなかないこともあり、折角の機会を頂戴いたしましたので、自己紹介をさせていただきたいと思えます。

生まれは、東京の東久留米市で4歳ころに福岡に引っ越しまして、30年ほどは福岡におりました。福岡市の南に位置する大野城市というところに住んでおり、幼稚園、小・中学校、さらに高校も市内に通っておりました。近くには大宰府天満宮があり、学問の神様として有名な菅原道真公が祀られております。大学も地元の九州大学で、準硬式野球部に所属し、あまりに熱心に部活に励んでしまいまして、留年の危機に何度も遭遇しながらの大学生活でした。卒後はそのまま九州大学小児歯科の大学院へと進学しました。

学生街ということもあり、九大の近くにはご紹介したい店は多々あるのですが、一番は「犬丸」という鳥料理の店です。ただし常連しか食べさせてくれないので、九大に常連のお知り合いがいるならばぜひ行ってみてください。ちなみに週4日しかやっていません。

大学院修了後は2年間医員（研修医）をした後、鹿児島大学へ異動となりました。九大のある福岡は、やはり長い間慣れ親しんだところでもありますし、学生、大学院時代にお世話になった先生、同僚、後輩らと別れるのは寂しいことでもありましたが、結果的には外を見ることは私にとってとても良い経験となりました。鹿児島大学時代には、

1年7ヶ月米国テキサス州ダラスへ留学させていただいたり、研究や臨床にも活躍の場をいただいたりと、足かけ7年間大変お世話になりました。多くの先生方や学生さんらと知り合うことができ、大変楽しく過ごさせていただきました。またまた食の話になってしまいますが、鹿児島を訪問する機会があるようでしたら、「味のとんかつ丸一」というとんかつ屋さんと「焼肉の白川」という焼肉屋さんぜひ行ってみてください。かなりお勧めです！

当科の早崎治明教授からお誘いをいただいた縁で、今年4月から一家一同新潟へ異動して参りました。物心ついてからは九州にずっと住んでいたこともあり、暑い夏には慣れっこですが、厳しい冬の寒さは経験がありません。これから秋・冬と我々にとっては未経験な気候ですので、不安半分・期待半分の様な感じですが、新潟の良さをいろいろ体験しながら新潟を知っていこうと思えます。

研究に関しては、大学院時代からずっと早崎教授の下、小児の口腔機能に関する研究を行ってきました。また、顎顔面形態計測器やCBCTを用いた形態学的研究やモーションキャプチャシステムを用いた手腕、頭部などの機能研究も進めております。小児の口腔管理を行うには、口腔機能や形態の成長発育の正常像を知り、またその異常を各年齢に応じて把握することがとても重要なことだと考えております。さらに、小児歯科の特徴の一つである乳歯を用いた幹細胞に関する遺伝子工学的研究も進めております。九州大学、鹿児島大学ともに様々な先生方と知り合うことができ、いくつかの共同研究を進めさせていただいております。新潟大学でも新たな共同研究を始めることができるのではと、大変楽しみにしております。機会をいただけるようでしたら、ぜひにと思っております。

最後になりますが、小児歯科だけでなく歯学部、

歯科界のために精一杯努力していく所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

*

素顔はこんな感じ



福祉学分野・准教授

中川 兼人

こんにちは、平成24年4月から「口腔生命福祉学科」にお世話になっています。

私は、それ以前は「新潟市の一般行政職」として33年の間、新潟市の主に福祉、教育、医療等の現場に関わってきました。

ただ、その中の教育、医療等の現場についても「教育委員会」に所属している時は生活保護に準じる「準用保護」とも呼ばれる「就学援助制度」の維持改善を行い、そして「新潟市民病院」に勤務している時も「第3者行為」と言われる交通事故や傷害事件の対象者への対応を行い、「雇用対策室」勤務の際も「障害者雇用施策、高齢者雇用施策」を行うなど福祉的要素の強い仕事に関わってきました。

そして福祉分野の中で10年と一番長く関わってきた業務が「生活保護業務」でした。この間におよ3,300にのぼる生活保護利用世帯と接してきました。それだけに、本当に「高齢者、障害者、傷病者」に代表される「ハンディキャップのある世帯」にどうしたら満足して喜んでもらえる制度になるのかよく悩み、考えました。

10年の間、私が行ってきた「生活保護業務」の中で、いくつか印象に残っていることを挙げさせてもらおうと、「トラブルを起こす精神病やパーソナリティ障害の方との面接、インテーク」、「新潟市のホームレス施策確立とホームレスとの実際の対応」、「貧困の連鎖を断ち切るための低所得世帯中学生の勉強会の立ち上げ」、「薬物とアルコール

依存症の方の自立支援プログラムの立ち上げ」、「生活保護に関する大学と行政のネットワークの構築」などです。それと後半の6年間はこちらの「口腔生命福祉学科」で「公的扶助論（生活保護）」の非常勤講師をさせていただき、大変、勉強になりました。

昨今は、お金持ちの芸能人の親が生活保護を受けていたとかでマスコミを賑わしていますが、1950（昭和25）年に作られた「生活保護法」はその後、大きな改正もなくここまで来たので、よく言われる「制度疲労」を起こしていると私は考えています。

ですから、そう遠くない時期に「生活保護法」の大改正が行われると思います。

さて、私の個人的な素顔ですが、数代続いた古町の下町育ちで「芸者置屋」の友達が何人かいて、彼らの所に遊びに行くと芸者のお姉さん方によく喫茶店に連れて行ってもらったりしたことが自慢です。

今は、閑屋方面に住んでいます。妻一人、息子一人います。息子も福祉関係で働いています。社会福祉士です。これ、自慢です。

趣味はスキーとグラススキー（芝生の斜面をキャタピラの付いた板で滑るスキースポーツ）です。かれこれ25年以上、ボランティアで中越地区のスキー学校と群馬のグラススキー場で非常勤コーチをしています。深雪と緑の芝生を愛しています。これも自慢です。

学校は明治大学商学部卒です。あまり真面目な学生ではなかったのですが、好奇心は旺盛で、いろいろな活動に首を突っ込んでいました。これは自慢ではありません。

お酒も好きで、特にビールとワインと日本酒とウイスキーと焼酎が好きです。これも自慢になりません。

美味しいものを食べることも好きで、現在、わが人生で最高の体重記録を更新しています。もちろん、これも自慢に……なりません。

でも、口腔生命福祉学科の学生たちが「福祉の心を持った素敵な社会人」になれるよう、精一杯頑張るつもりです。これ、自慢に……なるといいなあです。

以上、こんな私ですが、皆さま、よろしくお付き合いくださいm(_ _)m。

＊

インプラント治療部・助教

山 田 一 穂



現在、インプラント治療部に在籍しております山田一穂と申します。このたび、「素顔拝見」ということで依頼を受けましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

生まれは、新潟県豊栄市（現在の新潟市北区）、幼少期から今までずっと新潟で過ごしておりますが、寒いのは苦手です。スキー・スノーボードは基本的にやりません。去年、おとしと挑戦しましたが、すごく下手でした。

しかし、夏は得意というか暑いのは比較的平気で、家ではエアコンなしでも大体過ごせます。5年ほど前より、友人に誘われてウエイクボードを試してみたところはまってしまい、現在では夏の趣味にしています。ウエイクボードとは、水上スキーのスノーボード版です。鏡のようにまっ平らな水面で行うと、ウエイクしている自分の姿が映り感動します。日焼けをするので、院内では白衣とのコントラストで顔がかなり黒く見えてしまいますが……。去年、ショップ主催の大会に出場させていただき、うまくないのになぜか上位入賞を果たしました。立つのはサーフィンよりずっと簡単なスポーツといわれていますので、興味のある方はぜひやってみてください。

インプラント治療部は2012年7月現在、病院3階に診療室があり、顎関節治療部、画像診断診療室と同じエリアにあります。専任部員である我々

は星名秀行先生をはじめとして、私と上杉崇史先生、小川信先生の4人でチームとして治療に取り組んでおります。

また、医局は6月に引越したためわかりにくいですが、西診療棟の2階、総診医局の隣にあります。医局の冷蔵庫には、星名農園から採りたての野菜が入っていて、いつでも食べることができます。どれもおいしいのですが、個人的に一番のお勧めはブロッコリーです。去年は収穫間近の時期にブロッコリー泥棒に遭ってしまい、ほとんど収穫できなかったため、あまり食べれず残念でした。今年からは勝見農園（顎外 勝見祐二先生）の野菜も加わり、医局冷蔵庫は、新鮮野菜で充実しております。この医局にいるだけで、健康的な生活を送ることができます。

もともと私は補綴科に在籍していましたが、インプラントにも興味があったので、2005年ころより当時ドイツ留学から帰ってきたばかりの顎関節治療部 荒井良明先生のオベの手伝いをさせていただきました。その後、荒井先生の指導のおかげで、自分でも数症例インプラント埋入手術～補綴までを経験させていただくことができました。

2007年に、インプラント製造会社としては最大手であるノーベルバイオケア社のワールドカンファレンスがラスベガスで開催されることを知り、荒井先生、歯周科久保田先生、インプラント治療部星名先生と私で、参加申し込みをいたしました。早朝に4人で新潟を出発し、意気揚々と向かったのですが、成田空港でとある事件が発生し、私だけ出国できなくなってしまいました。放心状態の私を星名先生が励ましてくださり、周囲の協力もあり、翌日ラスベガスへ向かうことができました。一日遅れでカンファレンスに参加したのですが、メイン会場は1万人も収容できるアリーナ、その他サブ会場が多数、プール、カジノがあり、宿泊ホテルの客室総数は5,000以上と全てが巨大で煌びやかな会場で、カンファレンスはまるでお祭りのようでした。開催中ずっと衛星中継でライブオペが流れていて、会場でも客室でも観ることができました。特に驚いたのが、All-on-4やガイデッドサージェリーと呼ばれる当時最新のインプラント治療でした。総義歯・無歯顎の患者に

対して1時間あまりでインプラント埋入～上部構造（固定性の歯）装着を終え、その場で患者はリングをかじって喜んでいました。別世界の出来事にも思えたライブオペを見ているうちに、私もいつかその技術を習得したいという思いがわいてきて、帰国するころには、すっかりインプラントの虜となってしまいました。

当時星名先生は私のことをあまり知らなかったと思うのですが、ラスベガスから2年後に声をかけてもらい、インプラント治療部にお世話になることになりました。今考えると、成田空港での事件があったおかげで、私のことを覚えていてくださったのではないかと思います。

最後になりますが、毎週木曜17時より病院大会議室にてインプラント症例検討報告会を行っております。通常の医局検討会と違い、保存科、補綴科、口腔外科など様々な専門分野の先生方が集まって行われています。学内の方は学生でも研修医でも、どなたでも参加することができますので、気軽にのぞきに來てください。

＊

摂食・嚥下機能回復部・助教

真柄 仁



スペインのモンセラットにて。著者は一番左。この写真のちょうど2年後、お2人の先生のご指導の下で、現在の私があります

平成24年4月1日より、摂食・嚥下機能回復部助教を拝命いたしました真柄 仁と申します。この度、素顔拝見に寄稿させていただきます。よろしくお願いたします。

出身は、新潟県加茂市です。少し地元の紹介をさせていただきますと、「北越の小京都……」と呼

んでいるのは一部の加茂市民だけかもしれませんが、新潟県の県木であるユキツバキの群生地やリス園がある加茂山公園があり、週末には家族連れなどでそれなりに賑わい、また、伝統工芸品である桐タンスは全国的に有名と地元では言われています。そんな加茂市をこよなく愛し続け、予備校、学部時代を通じて大学院3年目までの13年間、自宅から信越線で新潟まで通い続けました。大学院最終学年になると1時間の通学時間がさすがに苦痛となり、新潟市民となりました。いざ部屋を借り、張り切って様々買い揃えたわけですが、今では埃が被る食器たちと、賞味期限が迫る調味料たちを前に、自分の生活力のなさを反省しているところです。

大学入学以降のことを振り返りますと、本学歯学部での最終学年の臨床実習である患者様の有床義歯製作を担当させていただき、その時の担当ライターの先生の御指導を受け、補綴治療を学びたいと考えた大きな契機がありました。卒業後は包括歯科補綴学分野（1補綴）に研修医として入局し、2年間在籍後の研修修了時には、補綴治療の奥深さや難しさを実感し、その知識、技術、経験の更なる習得を目指して、大学院に進学しました。治療のゴール像となる最終的な補綴形態を見据え、自分ならこう受けたいと考えた治療をじっくりと患者様に提供できる大学病院の診療室という環境は、卒後に歯科医師としてのベースを築く上で大変意義あるものでした。また研究面では、口腔解剖学分野に在籍させていただき、多様な顎口腔機能に関わる下顎運動の軸を形成する顎関節において、ストレス下の組織学的な変化の探索に関して動物実験モデルを用いた基礎的研究を行って参りました。

さて、日本をとりまく人口の高齢化は今更言うまでもありませんが、既に65歳以上の高齢者が全人口に占める割合は約25%となり、2055年には人口の40%にまで及ぶとされています。高齢者の多くは、加齢による機能低下、脳卒中などの後遺症、腫瘍切除後など、様々な要因で摂食・嚥下機能に障害が生じてきます。嚥下障害が起こると唾液や食べ物の飲み込みが困難になり、場合によっては誤嚥性肺炎を引き起こし、これは死に直結する問

題となります。こういった時代背景の中で、「食べる」機能を包括的にとらえた歯科医療形態が今求められていると考えます。大学院修了時には、現所属であります摂食・嚥下機能回復部の要職への昇任のお話を、井上誠教授から頂きました。現在はその一員として、嚥下障害を有する入院患者様が切実に思われている「食べる」機能を安全に回復できるようにサポートさせていただいていることに、非常にやりがいを感じているところです。これまで、補綴がある意味で歯科治療の最終ゴールと考えておりましたし、それが卒後に補綴科を専攻として選んだ理由でもありましたが、更にその先に嚥下機能回復という別のゴールがあることを知りました。嚥下障害の要因の多様性と複雑さの中から正確に病態を把握、診断し、個々の患者様により良いリハビリテーションを提供し、問題解決できるよう日々新たな勉強をさせていただいております。その中で、有病高齢者の患者様は有床義歯を装着する必要がある方が多いため、これまでの補綴科での経験が「食べる」という到達像を実現する上で発揮できるのは、ご指導をいただいた先生のお蔭であると実感しております。

最後になりましたが、このような誌面を頂戴したことに感謝申し上げますとともに、微力ではありますが、新潟大学歯学部の発展に尽力して参りたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

＊

歯科矯正学分野・助教

越 知 佳奈子



2012年4月1日より歯科矯正学分野の助教を拝

命いたしました越知（おち）佳奈子です。この年齢で素顔を公開してよいのか？ という問題はありますが、少し自分について書かせていただきたいと思います。

出身は長野県で、中野市、須坂市、上田市と転居し、小学校6年から高校卒業まで松本市で過ごしました。すでに新潟で過ごした時間の方が長くなりましたが、いまだに新潟の気候だけは馴染めず、松本に帰りたくなります。

家族は夫と5歳と1歳の娘2人の4人暮らしです。夫は育児のみならず、研究、臨床面でもサポートしてくれ、長女は次女と母？ の面倒をよく見してくれ、次女はよくわからないまま保育園生活を楽しんでくれ、家族に支えられる毎日です。

高校、大学と硬式テニス部に所属しました。かなり真面目に打ち込んだため、学生時代は日本人の標準肌色をはるかに超えるほど日焼けしていました。卒後はほとんどやっていないので、肌色は落ち着きましたが、たまにテニスをすると、あまりの腕前に、「本当にテニス部？」と夫から疑惑の目を向けられます。

卒業後は、入学時より一番興味を持っていた矯正学を専攻しました。前教授花田晃治先生のもとで、「よく学び、よく遊べ。今日できることは明日でもできる。呼ばれたらすぐ来い！」をモットーに、入局後三年間くらいは、部活よりも体育会系な毎日を過ごしましたが、多くの師と出会い、矯正家に必要である知識、技術はもちろん、人間性についても多くを学びました。

大学院の研究は、大学院にでも残らないとできないような基礎研究をやりたい、という漠然とした理由で、第二解剖（現口腔解剖学分野）にお世話になりました。前田先生のご指導の下で歯根膜での神経栄養因子受容体の局在と機能というテーマで研究するうちに楽しくなり、大学院修了後も日本学術振興会の特別研究員として研究を続けました。7年間、前田先生はもとより、多くの先生方や同期に恵まれ、研究を遂行するプロセスや楽しさを体得できたと思います。

現在は臨床で生じた疑問点を研究しています。臨床では術者の臨床経験の違いにより、診断結果が異なる場合も生じます。これは症例の資料から

得る経験的で主観的なイメージの差によるものと考えます。この主観的なイメージを客観的な情報に変換できれば、複雑な症例でも臨床経験に関わらず、的確な診断が可能となると考えて、画像認知工学やオントロジー工学などの情報工学を応用した研究を行っています。

近年、矯正科を訪れる患者様の年齢層も広がり、それに伴い口腔内の状況も複雑、多様化しており、インターディシプリナリーアプローチを必要とする症例が多くなりました。矯正専門医には歯を移動できる利点を生かし、口腔内全体を再構築する治療方針を立案できる醍醐味があります。他分野の先生方の協力を得ながら、より良い治療方針を検討し、矯正治療により歯の位置を整え、修復処

置を行うことで、よりメンテナンス性の高い口腔内を作ることができます。矯正治療は他の分野と異なり、治療結果が出るまで長い期間を要しますが、そこが楽しいところでもあります。これからも研鑽を積み、患者様がより幸せになるお手伝いをさせていただきたいと思います。

最後になりましたが、出産で長期の休みを頂戴し、復帰後も仕事に家庭を持ち込み、齋藤先生をはじめ医局の先生方には、ご迷惑をおかけしてばかりですが、優しいお心遣いに深く感謝しております。教員としては素人ですが、これまで様々な分野で関わった多くの先生方から受けた教えを少しでも還元できるよう、これからも精進したいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

